

○ 仕事の内容

八月に入ってから窓口の業務もこなせるようになってきたので、現場に出るより窓口対応と課税処理の業務に専従するようになりました。「罹災証明書」や「被災証明書」の発行もなかなか申請が絶えないところですが、各税証明の発行や図面の閲覧といった通常の窓口業務もあるので、お客さんが頻りに訪れるような日々が続いています。震災関係のことに関しては当初わからないことだらけだったので、他の職員の方に一から教わるようなかたちだったのですが、通常の窓口業務については、基本的にはどこの市町村も変わりはないので、すぐに対応することが出来ました。最近では、8月27・28日に住宅が半壊以上の被害にあった方に対して財団法人から住宅被害見舞金が支給されることとなり、その必要書類として「罹災証明書」が挙げられていたため、「罹災証明書」の再発行の申請が相次ぎました。

また、通常より3か月遅れの8月9日に、平成23年度の固定資産税の納税通知書が発送されました。発送後、税金に関する問い合わせが多くなると予想していましたが、ピークは二日間ほどでさほど混雑しませんでした。納税通知書の発行に伴い、8月中旬から事業を営んでいる方に対して、東日本大震災による償却資産の損害状況の申告の受付を開始しました。こちらも損害割合に応じて、固定資産税を減免するのですが、漁業、水産物加工業が盛んなまちだけに、これらの業者が申告の割合を多く占めているように感じました。8月の後半はこの償却資産の課税処理に追われています。

税務課資産税係全体として新築家屋の調査や土地の現況調査、登記に伴う所有権移転処理などといった、普段行う業務にはなかなか手をつけられない状況となっています。

○ 街の様子

八月といえばお祭りの季節であり、大船渡市でも大船渡町の夏祭りは中止となってしまいましたが、盛町で七夕祭りやとうろう流しのお祭りが開催されました。

二つお祭りとも多くの人で賑わっていました。また海外からのボランティアの方が手伝っている姿も見られました。

また大船渡市の隣、陸前高田市でも恒例のうごく七夕祭りが開催されました。

こうして被災地のお祭りを観ると、被災地の方の復興への思いや、一刻も早く震災前の当たり前であった生活に戻りたいという願いを感じ取ることが出来ました。

周辺市町村では SMAP やゆず、ドリームズカムトゥルーなどといった有名アーティストも数々の復興イベントで来ていたのも印象的でした。



※七夕祭りの山車。盛町の各地区で山車が作られ6～7台ほどの個性的な山車が通りを練り歩きました。子供たちの元気な掛け声が印象的でした。8月6日撮影。



※とうろう流しの様子。昨年亡くなられた方のほかに、震災で亡くなられた方のとうろうも作られ、多くの弔いの灯りが川に流されていきました。会場ではほかに和太鼓の演奏や盆踊り、花火の打ち上げなどがあり、多くの方が訪れていました。8月20日撮影。



※ 陸前高田小学校で行われたうごく七夕祭り。こちらもきらびやかな山車が5台ほど作られていました。ほかにもステージのライブや、数多くの出店がありました。最後に陸前高田市長の挨拶があり、市民の方から「がんばれ！」と声をかけられていました。8月6日撮影。

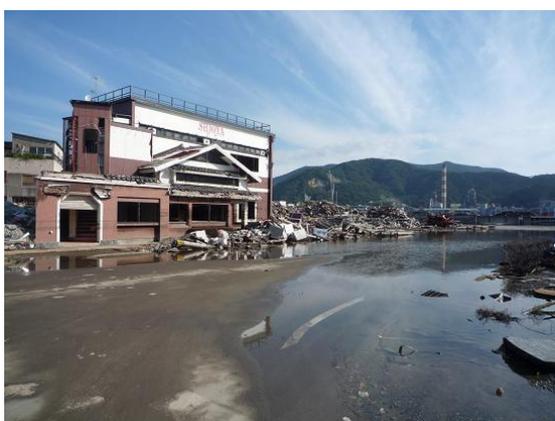
○ 生活の様子

八月からは生活の拠点を大船渡町にあるホテル福富に移し、お世話になっています。

こちらは、津波被害の大きかった地区の中でもかなり早く営業を再開したところで、地元の方々も驚いているほどです。三階建てのホテルで一、二階が被災しており、現在目下修繕中で、私たちは三階に宿泊しています。食堂が被災していることと、エアコンが使え

ないこと以外は、特に不自由なく暮らせています。食事は弁当がメインです。

ホテル周辺はまさに壊滅状態で、商業施設も多くあった場所なので大型店舗が立ち並び、構造も木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造と様々で、瓦礫の撤去がなかなか進まない状況です。しかし、先月までお世話になった弁天荘に比べると、市役所までの距離が大幅に近くなりました。現在では大船渡市役所から自転車をお借りし通勤しています。



※ ホテル福富の周辺の様子

被害のひどいところを中心に撮っていますので撤去が進んでいないようにも見えますが、徐々に片付き始めています。ただ建物の規模・構造がさまざまなので、農村部に比べると、かなり遅れているのは実感します。また海沿いの道では満潮時、雨天時に道路が冠水して車で通れなくことが度々あります。

最後に、残りあと1ヶ月となりましたが、少しでも大船渡市のお役に立てるよう精一杯がんばりたいと思います。